



教育ゆりほんじょう

第23号
令和7年11月28日
由利本荘市教育委員会
学校教育課
教育支援センター

今号は、中学校部活動の地域移行に向けて、由利本荘市教育委員会部活動地域移行支援コーディネーターの畠山純先生に部活動地域移行の背景と現状、今後の動き等について紹介していただきます。

■ 部活動地域移行の背景

部活動は学校教育の一環として、大きな役割を担ってきました。

様々な教育的意義があり、学校教育において大きな役割を担ってきた部活動ですが、少子化の影響や価値観の多様化等により、持続可能という面で厳しい状況にあります。

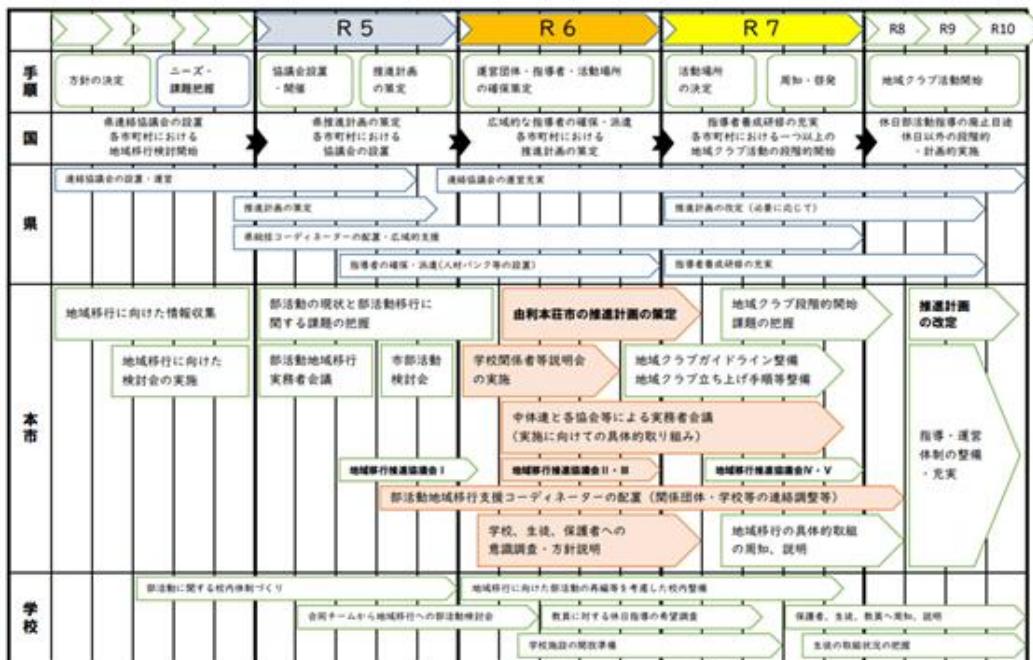
これまで部活動が担っていた役割・機能を地域社会に移行・展開し、生徒が自分のやりたい活動に自分らしく取り組めるよう、地域全体におけるスポーツ・文化芸術活動の環境整備を進めていくのが、地域移行(展開)です。

部活動の地域移行には、以下の3つの側面があります。

- (1)子どもたちのための環境づくり(専門性の高い指導と多様な種目が経験できる)
 - (2)学校の働き方改革と教育の質の向上
 - (3)地域全体で子どもを育てる仕組みづくり

■ 部活動地域移行の実際

由利本荘市中学校部活動 地域移行ロードマップ(R7.11.20版)



この表は、本市「ロードマップ」です。上段の「国」「県」の目標・取組を踏まえつつ、本市において達成すべき目標・取組を明確にして取り組んできました。

令和5年度後半から私がコーディネーターとなり、中体連やスポーツ協会、競技団体など、関係団体との調整を始め、協議会を立ち上げました。

昨年度は「推進計画策定」を目標に、文化・スポーツ課と毎月担当者会議を行いながら、児童生徒・保護者・教職員へのアンケートの実施、スポーツ協会会長やスポ少本部長、小・中学校校長会長、市PTA会長・副会長との年2回の協議会を実施しました。また、8月には「関係者協議会」を開催し、中体連各専門部理事・専門委員長と各競技団体とが種目ごとに、地域移行の方向性や運営方法について話し合いました。

秋田県が示している地域クラブ(部活動が地域移行したもの)には、以下のようなモデルパターンがあります。

【図12：地域移行パターンの概要】

部活動の地域移行モデルパターン			
区分	パターンA 地域における既存団体	パターンB 地域における新たな団体	パターンC 拠点校・市町村連携等
中心的な運営・実施主体	①総合型地域スポーツクラブ ②スポーツ少年団 ③クラブチーム・道場 ④民間スポーツクラブ	①行政（教育委員会等） ②スポーツ協会・競技団体 文化芸術団体 ③保護者会・同窓会 ④企業・大学・民間事業者	①拠点校方式 ②市町村連携方式 ③中高連携方式 
★各地域の実態や特性に応じて、様々なモデル・パターンを組み合わせるなど、多様な地域移行モデルが考えられます。			

全国的には休日移行から進められており、ニュースポーツや趣味の領域まで広げた多様なクラブも見られますが、本市では平日と休日の別なく、現存の部活動で、生徒の受け皿準備が整った競技から地域クラブチームの公募を開始するなど、各競技の実態に合わせて運営・活動できるように進めています。

今年度8月の「関係者協議会」では、サッカー競技とソフトボール競技が公募する運びとなりました。11月には、サッカーが3クラブ、女子ソフトボールが1クラブの申請があり承認されました。現中学校1・2年生には今年度中に、来年度の新1年生には来年度の4月にクラブ員の募集をする予定で進めております。

サッカーは以下のように、地域割のクラブとなりました。

	クラブ名	当該中学校
1	本荘北FC	本荘北、岩城、大内
2	本荘南・東FC	本荘南、本荘東、東由利
3	由利・西目FC	由利、西目、矢島、鳥海

ソフトボールは、現在所属生徒が少なく、由利本荘市だけでは、単独でチームをつくれない可能性があります。特例として、にかほ市からもクラブ員を募集します。未経験者や今まで部活動にソフトボールがなく、できなかつた生徒もチャレンジするいい機会となります。

いずれ中体連はなくなると思われますが、それがいつになるのかは、明確ではありません。全国的に部活動と地域クラブが共存する時間が長くなることも予想されます。部活動地域移行・展開は、これまでにない取組で、子どもたちや地域の皆さんのが充実したスポーツ・文化活動にするためにも、持続可能な活動にしなければなりません。これまで以上に地域と学校、クラブ等の密接な連携が重要で、由利本荘市として統一した体制づくりが必要です。今後とも一人一人の協力をよろしくお願いします。